

12/7

市民協働の時代に
向き合うために

市

では、市民、町内会、NPO、企業など、地域の多様な組織と連携・協働を深める「市民協働」について理解を深めてもらおうと、市民協働講演会を市コミセンで開催しました。

講師の九州大学大学院客員准教授の加留部貴行氏が「いつしよにやる、ということ」多様性や変化と向き合う時代に向けて」と題して講演し、参加した皆さんは、講師の話に熱心に耳を傾けていました。

この講演の様子は、市のホームページで動画配信しています。ぜひご覧ください。



12/16

国民保護の理解を
深めるために

国

・県・市の共同により1月29日に実施された県内で初めてとなる「国民保護共同実動訓練」の実施に先立ち、市民の皆さんにも国民保護の理解を深めてもらうと「国民保護研修会 in 長崎」をさくらホールで開催しました。

研修会では、内閣官房の奥村徹氏の講演に引き続き「災害としてテロ 地域はどう備えるか」と題して、ハネルディスカッションを行いました。

会場には多くの市民の皆さんが訪れ、テロなどの災害が発生した際の地域住民による避難、救護活動などの重要性を再認識しました。



12/16

オフィスパーク大村
への進出が決定

日

野出株式会社が出すことが決定し、日野一壽社長と松本崇市長が出席して立地協定調印式を行いました。

同社は、福岡市に本社を置き、家庭紙や包装資材などを取り扱う中間卸売業として事業を展開し、西日本円にシェアを拡大しながら発展を続けている企業です。

平成23年12月27日に工事に着手し、6月に操業開始の予定です。日野社長は、「今回の物流面での基盤整備をきっかけに、今まで以上に地域に密着した取り組みをすすめていきたい」と抱負を語りました。



夢への挑戦

私は、夢は見るものではなく、実現させていくものだと思っています。今年の実現に向けて、一歩一歩まい進してまいります。

まず一つ目の夢は、活水女子大学に続いての大学の誘致です。特に海外に進出する企業にとって即戦力となる人材の育成が重要です。語学と技術を柱とする大学誘致のための戦略・基本構想を策定し、是非実現したいと思っています。

二つ目は、今年秋に完成する上駅通り地区市街地再開発ビルを起爆剤に、昔の賑わいを取り戻したいと考えています。また、平成26年には親和銀行跡地に市民交流プラザを建設します。これら二つの建物とアーケード(モール)という「2核1モール」により、中心市街地の活性化を実現し、全国のモデルにしたいと考えています。

三つ目は、九州新幹線「新大村駅」周辺の整備構想策定です。本市には空港、高速道路インターチェンジがあり、これらに加えて新幹線の駅ができれば、まさに高速交通拠点都市となります。まさに新幹線を活かした大村の活性化です。

更に、長崎空港から西彼半島への大村湾横断フロートイングリッジ(浮き橋)を大村市だけではなく、県として大村湾周辺の自治体と一緒に実現したいと考えています。

なお、市民の皆さまへのサービス向上のため、職員に対し①笑顔での対応(Service with a smile) ②縦割りではなく、ヨコの連携システムづくり(System) ③スピードアップ(Speed Up)の「3C(S)」を徹底するよう機会あるごとに力説しています。

大きな夢を抱きつつ「3つのS」も忘れずに、「日本で最も住みたくなるまち」を目指して元気のある大村市にしていきたいと思っています。